



阿弥陀寺文書調査



▲阿弥陀寺本堂正面

阿弥陀寺について

浄土宗寺院である蓮臺山捨見院阿弥陀寺は、京都市上京区の寺町の一角にあります。

寺伝によると、天正10年（1582）6月2日、当時の住職・清玉上人が織田信長・信忠をはじめとした本能寺・二条城での戦死者の遺骸を引き取り葬ったとされています。

阿弥陀寺文書調査

2024年11月に、室町末期から昭和末期に至る約400点の文書が発見されました。それに伴い、京都府立大学文学部歴史学科文化情報学研究室の協力のもと、2回生（当時）を中心に文書調査を開始しました。現在は目録作成・撮影・ラベル貼りなどが終了し、翻刻を進めています。



▲調査の様子

2027年、報告書を刊行します！

2027年には、文書調査の成果をまとめた報告書を刊行する予定です。企画・執筆は学生が中心となって進めています。報告書では、戦国時代における政治動向と阿弥陀寺との関係から、江戸時代の織田家・森家・青木家との関係、さらに明治期の廃仏毀釈後における寺院の生存戦略に至るまで、多様な時代・テーマを扱います。

また、古文書の翻刻・目録に加え、石造物・建築・仏像など多様な文化財を取り上げることで、阿弥陀寺の歴史と文化を総合的に学べる本を目指しています。専門的な調査成果を盛り込みつつ、一般の方も読みやすい報告書となるよう、現在鋭意執筆を進めています。

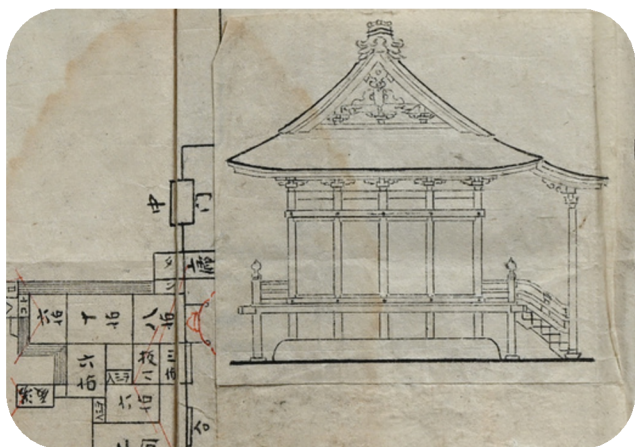
受け継がれてゆく阿弥陀寺

堂宇のすがたとその変遷

2026年信長忌記念展示

阿弥陀寺では、毎年新暦の6月2日に「信長忌」を執り行い、天正10年6月2日に本能寺や二条城で亡くなった方々を吊っています。当日は、後陽成天皇より賜った勅額、信長が使ったと伝わる弓懸・手鑑・鞍覆などを展示しています。

2025年から始まった阿弥陀寺文書調査の成果を踏まえた新たな展示も、今回で第2回目となります。本展示では、主に文化・天保年間に作成された絵図や、近代の境内整備に関する文書を通して、阿弥陀寺の境内がどのように変化してきたのかをご紹介します。



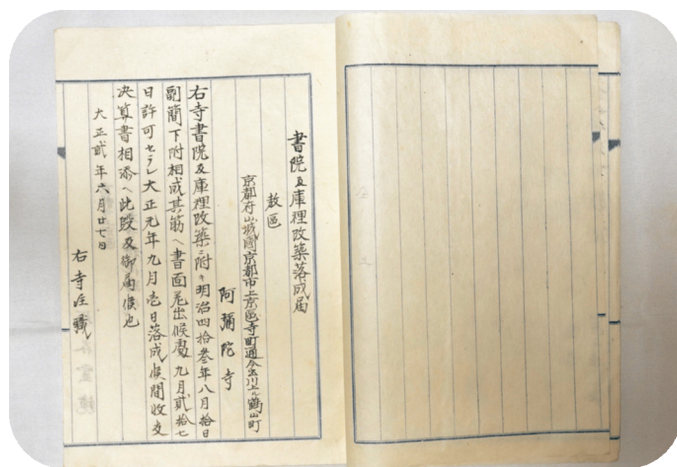
▲天保年間の絵図

天明の大火と阿弥陀寺

天明8年（1788）に起こり、京都に大きな被害をもたらした天明の大火により、阿弥陀寺は庫裏・客殿・本堂・四つ脚門が焼失しました。大火後、建物はいったん再建されましたが、天保年間に、以前の姿に近づけようとする動きがみられます。絵図からは、屋根の形や間取りがわかり、当時の阿弥陀寺の建物のようすを具体的に知ることができます。

信長贈位と境内整備

明治時代後半から大正期にかけて、阿弥陀寺の堂宇の改修・整備が行われました。その背景には、大正6年（1917）に信長公へ正一位が贈られ、その儀式が阿弥陀寺で行われることがあったと考えられます。庫裏・書院・石橋など大規模な工事が行われたようです。



▲書院及庫裡改築落成届

2026年6月2日発行

編集：上武恒介、若山阿美

発行：京都府立大学文学部歴史学科文化情報学研究室

協力：蓮臺山捨見院阿弥陀寺

京都府立大学ACTR「京都府域の地域史資料の情報化とAI活用による連携基盤の構築」



公式Instagram



公式X



公式Instagram



公式X